



道祖神についての説明を受けながら歴史や文化に親しむ参加者

2008.10.1 伝説

歩いて知った安曇野 NPOがイベント

安曇野の文化財や景観を見て歩く「ふるさとウォッチング in 安曇野」が二十八日、安曇野市豊科高家の飯田地区で



開かれた。市内外から参加した約百人が点在する屋敷林や古い家並みを見つめ、魅力に感じ入っていた。写真。

都会からの移住者と地域住民の交流を促すNPO法人「信州ふるさとづくり応援団」安曇野支部が主催し、四回目。安曇野でも早くから稲作が盛んとなって発展した同地区に約五キロのコースを設け、半日かけて歩いた。

戦国時代に築かれた飯田砦跡、江戸中期の建築とされる飯田家の屋敷、田園を潤す拾ヶ堰などを見学。同法人

地域てくてく再発見 豊科でツアー

NPO法人(特定非営利活動法人)信州ふるさとづくり応援団安曇野支部(等々力秀和支部長)は二十八日、安曇野市豊科高家でウォーキングツアー「第四回ふるさとウォッチング in 安曇野」を開いた。約百人が参加し、道祖神や屋敷林などを巡って地域の歴史や文化に触れた。

「拾ヶ堰(せき)と屋敷林・歴史的建物の残るまちなみ巡り」と題して、豊科高家の飯田地区の約五キロの道のりを散策した。拾ヶ堰沿いの遊歩道を歩きながら、水路のある街並みや飯田砦跡などを訪ねて地域の歴史を堪能した。ガイド役の同

法人のメンバーから、飯田地区の道祖神はすべて文字碑であるとの説明も受け、参加者は興味津々な様子で耳を傾けていた。

ツアーは安曇野の魅力を再発見しようと開かれた。

「(山浦雄一郎)

のスタッフが歴史やエピソードを解説した。昼食はもみ殻を燃料に使う「ぬかくど」で安曇野産米を炊き、おにぎりにして味わった。

参加した松本市平田のパート従業員塚田美子さん(52)は手入れされた屋敷林に感動した様子。「安曇野は時々訪ねるが、この辺りをじっくりと見るのは初めて。歩いて分かる良さがある」と話していた。